

お嬢さまの交友録

2011年6月22日（金）くもり

坂本氏：おお、どこのお嬢さんが来たかと思った。

高橋：別院のお嬢さんですよ～
お疲れ様です。8月中に展示できるものありますか？

坂本氏：そこに置いてある古いやつ全部持ってっていい～ぞ！
邪魔でしょうがない。誰も持っていかないんだもん。
トラックで運んでやっから。
8月中と言わんで、ずっと置いとっていい～ぞ！
新しい鬼板は8月までに出来るから、展示するか？
スペースは、6畳分くらいあれば大丈夫だわ。

高橋：わかりました。その時はお願いします。
？…人なつっこいカラスがいませんか？

坂本氏：おお、よく来るぞ。中まで入ってくるわ。
オレ飼ってたんだ！
オレのしつけも良いから、悪戯しないし、餌も食べないわ(笑)
キツネも来るぞ～



と、ということで・・・

90年間風雪に耐えて来た本堂・大門の鬼板等を展示致します。
先達の想い・別院の歴史を肌で感じる事が出来ます。

期間 …7月末～8月30日まで

展示場所…別院事務所前・新納骨堂1階・大谷ホール

記帳書の提出はお済みですか？

旭川別院は、私たち「門徒」のお寺であり、
一人一人の力添えで支えられています。
すでに改修工事が進んでおります。

未だ記帳書の提出が滞っております方々には是非ともお願い申し上げます。

次回もお楽しみに (^_^)v

2011年8月1日作成

調査員：草部・垣原・横井よ・長尾・高橋

別院しらべ隊

調査報告書No.17 変わらないものもあるんだ！

粗勘古今

『旭川別院百年史』を見返すと、旭川別院を再建した当時、道北地区寺院からの相続講金（再建懇志金）募集で集まった金額が記載してありました。ご門徒・寺院の懇志・寄付合計金額は現在の額にして約10億円となり、その額の多さに驚かされました。

当時、人口も寺院数も少なく、道路もまだ馬車が往来している時代に、芦別・富良野方面や名寄方面等、道北地区全域の多くの方々によって旭川別院再建となったのです。

旭川別院のご門徒や道北地区寺院と各寺院のご門徒の方々が一丸となった姿が、今の本堂となったのでしょうか。道北地区の中心として、ご門徒全員の中心としてあってほしいという想いそのものなのではないでしょうか。その想いが、東北・北海道の中で一番大きい本堂となったのでしょうか。

旭川別院本堂は、念仏道場であり、先達の想いを伝承していく道場でもあるのだと痛感しております。今まさに、改修工事を縁として、道北地区全体で念仏相続を盛り上げていきたいものです。

月参り等で「工事の進行状況・寄付金の集まり具合」を尋ねられます。皆様の本堂等改修事業への関心が伺え、嬉しい限りです。

今、工事は順調に進んでいます。ご門徒・僧侶が一つとなって旭川別院を盛り上げていきたいと思えます。

旭川別院では、大正9年（1920年）に宗祖聖人650回御遠忌法要を厳修しております。当時の資料を見てみると、ご門徒はもちろん道北地区の僧侶が一緒になって法要の準備から法要の当日までお手伝いくださっていることを知ることができます。

宗祖聖人650回御遠忌法要事務局役員名簿(大正9年当時)・その1

局長 輪番 浅野 識
顧問 教務所長 安田 力
赤松 恵聞
圓淨 澄信
脇坂 諦正
佐々木 端政
岩城 速成
大林 勝由
近藤 義憲
久 教淵

＊庶務部＊

主任 赤松 恵聞
顧問 大林 勝由
部員 高岡 正淵・桑谷 即秀
酒井 恵海・柳沢 保憲
塚本 正純・名畑 最順
大沢 珂亭・小池 良源
笹川 栄純・松浦 淨玄
用係 春日井敏夫・立野 庄吉
林 徳太郎・吉岡 栄太郎
阿部 通之丞・前田 伊三松
福村 常次郎・川崎 弥八郎
佐藤 仲吉

＊法務部＊

主任 佐々木 端政
顧問 赤松 恵聞
座支配 佐々木 端政・大林 勝由
赤松 鳳秀・佐々木 章
附楽係 今川 拾翠・岩城 速成
列支配 圓淨 澄信・岩城 速成
加役 大沢 法宣・岩佐 祐迨

部員 茂利 教奉・藤谷 大威
采宰 顕昭・耳浦 賢龍
野嶽 芳雄・龍本 英芳
照元 義信・竹村 暁信
藤谷 巖・湊上 鳳靈
谷口 真淨・寺沢 皆道
加藤 随信・森 淳照
経塚 大俊・藤本 諦了
西崎 蓮蔵・力石 賢秀
川瀬 静心・石川 幸順
渡辺 住諦・大沼 □□
小沢 □□

用係 日光伊三郎・木元与三松
宮村弥三郎

＊接待部＊

主任 久 教淵
顧問 圓淨 澄信・脇坂 諦正
部員 庵 静雲・日暮 龍円
塚田 馨・多屋 弘
岩城 一雄・九谷 長丸
奥田 諦導・宗隆 教正

＊伝導部＊

主任 日暮 龍城
顧問 駐在布教師
部員 佐々木 順泰・谷本 睦甫
山本 智懂
伝導員 法中多数

(土別・名寄・中川郡・上川北部地区)

顕正寺 六百貳拾貳円也
静円寺 参百八拾七円也
清満寺 七百参拾壹円也
名願寺 九百九拾八円也
智恵光寺 四百壹拾七円也
高德寺 五百五拾七円也
風連別教場 壹百五拾円也
音威子府教場 四拾八円也
教行寺 四百五拾九円也
教信寺 貳百四拾六円也
勝誓寺 壹百参拾八円也
教証寺 参百八拾貳円也
邊乙部説教所 貳百壹拾九円也
土別御料地教場 壹百貳拾参円也
恩根内説教所 壹円也

(旭川・上川地区)

正行寺 六百七拾四円也
近文十四線教場 参百貳拾円也
志比内教場 五百四拾円也
静福寺 七千六百六拾六円也
光岸寺 五千五百八円也
光明寺 七百九拾貳円也
聞光寺 貳千九百九拾貳円也
勝龍寺 貳千六百九円也
瑞宝寺 七百九拾四円也
大正寺 壹千七百四拾貳円也
比布教場 壹千貳百壹拾壹円也
泰巖寺 五百七拾参円也
正覚寺 八百七拾七円也
無量寺 八拾九円也
下江丹別教場 九拾参円也
忠別教場 壹百七拾四円也
ルベシベ教場 貳百貳拾五円也
最勝寺 壹千参百七円也
即成寺 壹百貳拾参円也

総額 七萬八千貳百七拾参円也

＊別院ご門徒の別院本堂再建寄付者名簿は『別院しらべ隊』調査報告書No. 6～No. 12に記載しております。

大正9年(1920年)当時は寺院の数も少なく、生活環境も厳しい時代でありましたが、旭川別院再建・宗祖聖人650回御遠忌法要にあたり多くの寺院のご協力の下、道北地区の中心となる念仏道場となりました

※当時の仏具の金額と現在の仏具の金額を比較すると、大正9年当時時の壱円が現在では壱万円の価値となります。

相続講金合同募集(寺院・教会別)

旭川別院 貳萬七千貳百貳拾参円也

(芦別・赤平・富良野地区)

明憲寺 壱百円也
 法栄寺 七百五拾六円也
 導隆寺 壱千四百貳拾四円也
 東光寺 七百四拾八円也
 大徳寺 貳百壱拾貳円也
 幾寅説教場 壱百五拾九円也
 布礼別教場 壱百貳円也
 西達布教場 参拾五円也

(深川・雨竜地区)

澄心寺 参千参百五拾四円也
 高德寺 壱千貳百四拾円也
 高臺寺 八百八拾五円也
 大宣寺 壱千貳百四拾四円也
 光泉寺 壱千参拾四円也
 法光寺 壱千四百壱拾壱円也
 清雲寺 壱百八拾参円也
 願海寺 六百四拾壱円也
 願正寺 七百四拾貳円也
 法竜寺 五百貳拾壱円也
 永教寺 六百七拾九円也
 正見寺 七百壱拾貳円也
 屈狩教場 壱百貳拾五円也
 西暁寺 壱百七拾九円也
 恵比寿教場 四拾円也
 添牛内教場 四百貳拾五円也
 幌加内教場 貳百四拾円也
 添牛内五線教場 六拾六円也

宗祖聖人650回御遠忌法要事務局役員名簿(大正9年当時)・その2

* 参拝部 *

主任 脇坂 諦正
 書記 金倉 儀一・大野 禿
 来賓係 大林 周賢・金倉 儀一
 大野 禿・西尾 泰然
 指導係 明野 獅含・垣原 宗成
 大野 禿・金倉 儀一
 有資格者係 大林 周賢・義盛 清雲
 西尾 泰然・三浦 賢正
 婦人会員係 義盛 清雲・西尾 泰然
 大野 禿
 坊守係 明野 獅含・垣原 宗成
 藤谷 円融
 一般参拝係 明野 獅含・垣原 宗成
 三浦 賢正・藤谷 円融
 義盛 清雲
 相続講員係 明野 獅含・義盛 清雲
 垣原 宗成
 用係(世話方) 松永 音吉・中島 政八
 上楽浅次郎・沢田八次郎
 宮川 太助・加藤 石松
 北小右エ門・沢田 伊蔵
 沢田 他作
 坂口彦左エ門
 小林新左エ門
 中川徳右エ門

* 風紀部 *

主任 近藤 義憲
 顧問 佐々木 端政
 警備係 白井 豊信・松永 諦教
 救護係 竹嶋 松峰・明石 正順
 寺本 恵真
 風紀係 藤岡 良秀
 用係 西 竹吉・清水源太郎

* 総代役割 *

会計主任理事 笠原 定蔵
 会計副主任理事 後藤 慶治
 理事(各部の顧問)
 荒井 初一・越川百一郎
 浅野 舜一・岡田重次郎
 西倉重二郎・大谷岩太郎
 西村 玉吉・山田 新
 吉竹 鶴吉・東海林吉四郎
 斉藤弥三郎・上木弥一郎
 掛場吉右エ門

* 世話方役割 *

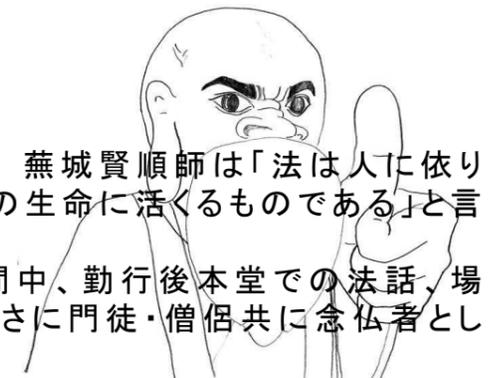
志納場係 辻 栄蔵・城喜左エ門
 赤坂 利作・境 善蔵
 小川竹次郎・小林 嘉助
 善浪重三郎・盛生 佐一
 杉谷宇右エ門
 記念品係 紙谷庄太郎・米本栄次郎
 大原 久蔵・西村初次郎
 伝導部係 河原 千松・武田 鶴吉
 東 米吉
 接待係 東海林常吉・秋野武四郎
 中島光太郎
 参拝係 12名(参拝部に記載)
 その他の係 世話方多数

以上、事務局役員名簿

(敬称略)

『旭川別院沿革誌』に旭川別院八代目輪番 蕪城賢順師は「法は人に依りて初めて其光を放ち、人は亦法に依りて不滅の生命に活くるものである」と言われている。

七日間の宗祖聖人650回御遠忌法要期間中、勤行後本堂での法話、場所を変えて広間での法話が開かれていた。まさに門徒・僧侶共に念仏者としての歩みを新たにすものであつたらう。



説教割当表

本堂説教			茶所説教		
四日	晨 朝 供養会	日暮龍城 佐々木順泰	四日	本堂説教後	金倉儀一・酒井恵海
五日	晨 朝 逮 夜 初夜批判	大富秀賢 藤岡良秀 岩城速成 谷本睦甫	五日	初 夜	近藤義憲・塚本正純
六日	晨 朝 日 中 逮 夜 初夜批判	義盛清雲 佐々木順泰 酒井恵海 日暮龍城	六日	晨朝後 日中前 初 夜	藤本諦了 藤谷円融・庵静雲 岩城速成 西尾泰然・岩城速成
七日	晨 朝 日 中 逮 夜 初夜御伝鈔後	高岡正洩 圓淨澄信 山本智懂 脇坂諦正	七日	晨朝後 日中前 初 夜	義盛清雲 塚田 馨・三浦賢正 大林勝由 名畑最順・佐々木順泰
八日	晨 朝 日 中 逮 夜 初夜御伝鈔後	岩城速成 藤本諦了 谷本睦甫 山本智懂	八日	晨 朝 日中前 初 夜	高岡正洩 九谷長丸・竹島松峯 日暮龍円 藤岡良秀・谷本睦甫
九日	晨 朝 日 中 逮 夜 初夜批判	脇坂諦正 日暮龍城 根室別院輪番 随行布教使 松見善月	九日	晨 朝 日中前 初 夜	山本智懂 明野獅含・奥田諦道 垣原宗成・大野 禿 藤谷 巖・日暮龍城 高山堅誠・多屋聞深 岩城速成・茂利教奉 塚本正純・幸谷即秀 宗隆教正・藤本諦了 赤松鳳秀・経塚大俊
十日	晨 朝	札幌別院輪番	十日	晨 朝	脇坂諦正

(敬称略)

旭川別院・宗祖聖人650回御遠忌法要にあたり、北海道内外の関係者各位に案内状を送っています。

来賓案内状差出名簿

役職名	ご芳名
師団長	内野辰次郎
旅団長	富塚定一郎
旅団長	柚原 勘蔵
参謀長	永谷 清治
旭川区長	市原源一郎
旭川区助役	村本弥太郎
支庁長	東郷 重清
警察署長	松本弥次郎
典獄	篠田 又吉
裁判所長	加納哲三郎
上川土木署長	斉藤 静修
中学校長	川村 文平
女学校長	上田 守蔵
職業学校長	小川幸太郎
御料局長	奈良 謙一
郵便局長	田村謙次郎
運輸事務所長	芦川 良平
建設事務所長	筒井弥一郎
保線事務所長	神谷 秀吉
駅長	石原 忠孝
鉄道工場長	安藤 寿雄
上川測候所長	山田順太郎
税務署長	高原 玄熊
北海道長官	笠井 信一
北海道内務部長	尾崎勇次郎
北海道殖民部長	後藤 祐明
北海道土木部長	原田 維織
北海道警察部長	浅利 三朗
商業会議所会頭	井内 勸二
商業会議所副会頭	下村正之助
商業会議所	永野 美光
商業会議所	岩淵英之助
商業会議所	志道壮太郎

(敬称略)

寺院関係者
量徳寺
浄應寺
常照寺
滝川二
信光寺
寺永 法泉
吉田 廣海
聞名寺
真林寺
函館別院
札幌別院
帯広別院
根室別院
江差別院

(敬称略)

この名簿を見ると、大正9年当時は別院再建にあたって、別院ご門徒・道北地区僧侶以外にも、多方面からのご尽力があったからこそ、なしえたものであったのでしょう。